

## 「色」という視点から、未来志向の地域教育や地域振興を模索していく取組み

照山龍治(「地域の色・自分の色」研究会) 木村典之(大分市立田尻小学校)  
幸野洋子(県教育庁幼児教育センター) 山崎朱実(別府市立鶴見小学校)  
塩月孝子(大分県芸術文化スポーツ振興財団(県立美術館)) 秋田喜代美(学習院大学)

### 1. 取組みの背景と目的

人口減少と少子高齢化、さらには高度情報通信機器の普及などにより、自然との関わりや人と人とのふれあいが希薄になり、私たちの周りでも、子供たちは自然からの学びや年長者からの実体験を通した学びが極端に少なくなっている(地域の色・自分の色実行委員会+秋田 2019)。さらに、コロナ禍が、これに追い打ちをかけた。このような中、子供たちと、「色」という視点から、身の回りの自然(大地)や歴史・文化を捉え直し、子供たちの目線で「ふるさと読本(ふるさとのたからもの)」を作成し、これを副教材として、別府市立鶴見小学校や別府大学明星幼稚園・明星小学校の授業に活用し、その効果検証も行い、未来志向の地域教育や地域振興を模索していくものである。

### 2. 取組みの方法

これは、2014年に、「色」を通して、「ふるさとの魅力再発見」を目的に発足した「地域の色・自分の色」研究会の取組みである。

対象地は、別府市鉄輪地域とした。この鉄輪地域は、源泉数・湧出量日本一の温泉群がある別府扇状地の一角にあり、日本ジオパークの有力候補地でもあった。また、豊後国風土記には赤湯泉や玖倍理湯井として、伊予国風土記(逸文)にも、源泉を道後温泉まで引いたとして紹介され、広く世の中に知られていた。

この彩り豊かな温泉群(地獄めぐり)やその泉源である活火山、火山岩を活用した独特の市街地景観、そして火山を神格化した神社などを、「色」という視点から、「地域の宝」として捉え直し、地域教育や地域振興に活用するものである。

具体的方法としては、まず、①フィールドワークにより、「色」という視点から地域の自然(大地)や歴史文化の特性を掘り起こす。次に、②文献や聞き取り等により研究会の独自調査を実施。③フィールドワークと独自調査により掘り起こした地域特性を「色」という視点で繋ぎ合わせ物語を作成。一方、④「顔料作り」や「たたき染め」などにより、隠れている「地域の色」を掘り起こす。⑤ ③により作られた自然(大地)と歴史文化の物語と、④により掘り起こされた「地域の色」を組み合わせ、子供たちの目線で「ふるさと読本(ふるさとのたからもの)」を作成し、これを副教材として別府市立鶴見小学校や別府大学明星幼稚園・明星小学校の授業に活用し、効果検証を行うこととした。

### 3. 「ふるさと読本」の作成

この読本は、簡易な文章と写真、挿絵で構成された32ページの本である。主人公がフィールドワークを行いながら、別府の「地獄めぐり」に纏わる歴史や「色」の科学を探求し、それらを総合した絵画表現に取り組み、将来自分だけの宝物になる「きれいなもの」をさがすといった「色」の物語教材である。中には、「顔



料作り」や「たたき染め」などの体験コーナーも盛り込んだ。

### 4. 副教材としての効果検証

別府市立鶴見小学校の3年生を対象として、「ふるさとのたからものを『色』でさがしてみよう」という題材を設定



し、総合的な学習の時間等を活用して以下の検証実践を行った。

- ① 「地獄めぐりをして、地獄のよさをさぐろう」
- ② 「別府の自然が生み出した色について調べよう」
- ③ 「自分のふるさとのたからものを考えよう」

海地獄の青色を見て、「入浴剤が入っているのかな?」とつぶやいたA児に対して、B児が、「地獄は天然記念物。自然でできている。」と反論したことから学びが始まった。地獄は人工か? 天然か? という視点を経て、(天然なら)「なぜ地獄に色がついているか?」「地獄の色の違いはどうか?」など、A児B児の発言は学級全体の「なぜ?」を触発した。そんな折、B児は地獄の色を調べ、血の池地獄の赤は酸化鉄(ベンガラ)の色だということを知り、みんなに伝えた。それ以降、3年1組では、ベンガラの探究が始まった。例えば、水にベンガラを入れて血の池地獄ができるか実験してみたり、血の池地獄に見立ててベンガラで染め物をしてみたりなど。ベンガラの付着力に気づいたB児は、「ベンガラで石を塗りたい」と言いだし、石にベンガラを塗る実験に発展。この活動は、「赤紫のベンガラの方が古墳の色に似ている」(C児)や「魔除け石」(B児)という発言を引き出すなど、赤色と古代遺跡の関係、赤色の意味にまで関心が及んだ。伽藍岳の石からかくれている色を探す活動では、「実験をしている間に楽しくなってきた」(D児)、「砕くと色が薄くなる」(E児)、「絵の具の色とちがった」(F児)など、夢中になっていく姿、色の変化を捉える姿、天然の色を感じ取る姿が確認できた。また、別府石の探究を通して、石の色が、熱によって様々に変化したり、含まれている鉄などの成分によって色が生み出されたりしていることを知り、火山活動と地獄、マグマの力と色の関係について発言する児童の姿も捉えられた。地獄の色の成りたちを探究する中で、地獄の「すごさ」を実感し、再び地獄を見に行く児童が現れるなど、読本の教材としての効果が見られた。

### 参考文献

- 「色から始まる探究学習」「地域の色・自分の色」実行委員会+秋田喜代美 明石書店 2019  
「教育ビデオライブラリー69 自分の色を見つけよう 地域の色・自分の色を作る試み」秋田喜代美監修指導(2019) 日本児童教育振興財団  
付記 この取組みは、公益財団法人前川財団 2020 年度助成を受けて実施している。